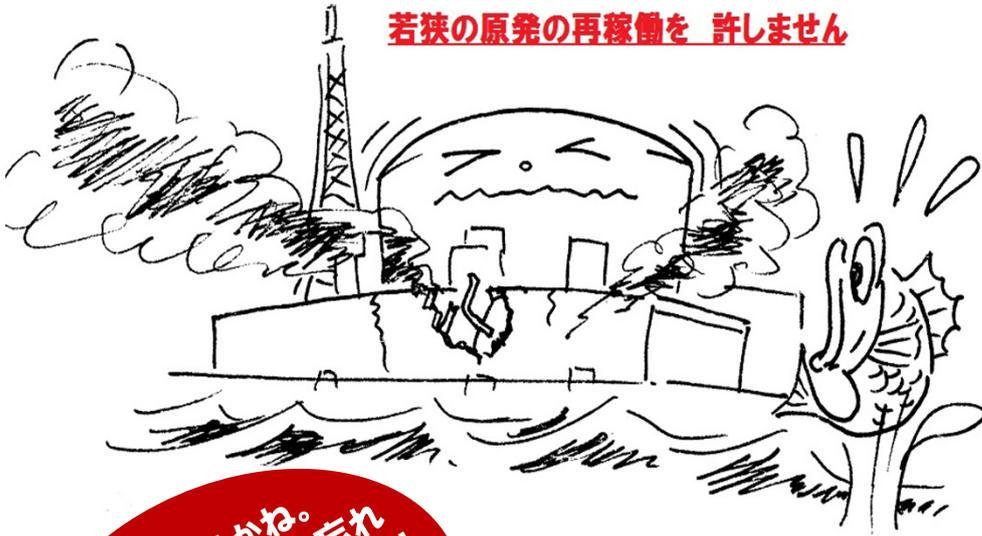


ひび割れ放置の24ヶ月運転を認める新検査制度反対！ 関電の老朽原発 美浜3号と高浜1・2号 再稼働を許すな！

若狭の原発の再稼働を 許しません



老朽原発では、長年の運転でひび割れたり、腐食が進んだり、配線が絶縁不良になるなど、見えないところでも、劣化が進んでいます。

とくに、強烈な中性子線を浴び続けた原子炉容器は鋳物のようにもろくなっていて、緊急炉心冷却装置が働くことと破断する危険が高まっています。

にもかかわらず、来年4月からはひび割れを放置したまま24ヶ月運転すら認める新検査制度が導入され、老朽原発にも適用されようとしています。

こんなことは許せません。

国も電力も愚かね。
喉元過ぎれば熱さを忘れ
るなんて！ 私たちは絶対に
フクシマを絶対に
繰り返させない！



来年4月から始まる「新たな検査制度」の問題点

- ① ひび割れ等の劣化が見つかったとしても、原発を止めなくてよい。次の検査までもつと電力会社が判断すれば運転を続けてよい。
- ② 電力会社がひび割れ等の劣化の進展状況を評価して「24か月以上もつ」と判断すれば、24か月間止めずに運転してよい。
- ③ 従来「定期検査」は廃止、電力会社が「定期事業者検査」として行い原子力規制委員会は合否判定せず、報告受領のみ。
- ④ 運転しながらの分解検査等も認め運転停止期間短縮を認める。

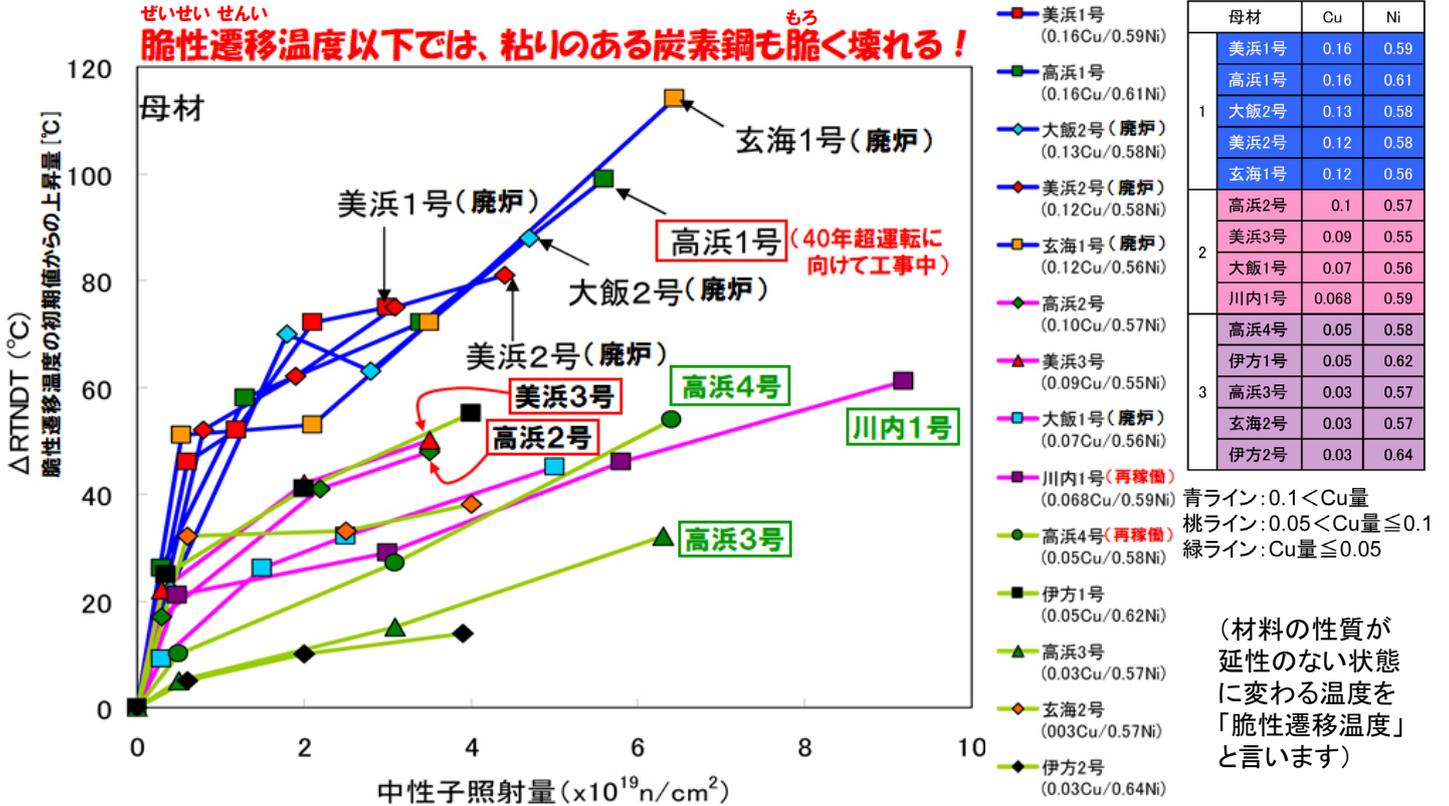
今までにも 事故やごまかしが...

関西電力は美浜2号で1991年2月9日に蒸気発生器破断事故を起こすまで、「細管は粘りのある材料でできているので、突然破断することなどない」とウソをつき続けました。2004年8月9日には、美浜3号で復水配管が破断して11名が死傷する大事故を起こしたのです。キチンと減肉検査を行うべきところ、定検短縮競争を優先させ、点検を怠っていたのです。来年4月からは、こんな関西電力の判断でひび割れを放置したまま、最大24ヶ月まで運転を継続できるようにします。許せません。

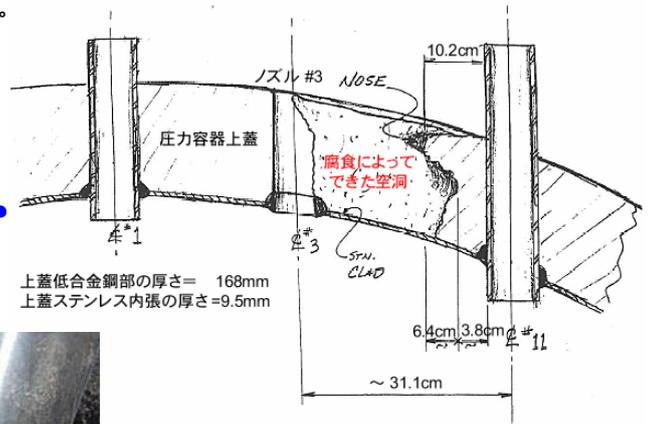


美浜3号2次系配管開口破断事故(2004年8月9日腐食による破断、定検準備中の下請労働者5名死亡、6名火傷)

原子炉破壊の危険ワースト8のうち5基が廃炉、3基が60年運転へ 高浜1号が最も危険！高浜2号・美浜3号が次に危ない！



原子炉容器は、長期間の運転に伴い、強烈な中性子線を浴び、材料がもろくなります = 「中性子照射脆化」と呼ばれる現象。高浜1号ではすでに 100℃前後でもろくなる状態になっています。事故で緊急炉心冷却装置が作動して100℃程度に下がると、原子炉容器が破壊され、炉心溶融事故へ至る危険があるのです。関電の3基だけが60年運転に向けて工事中です。こんなことは許されません。



点検の手抜きで、米国では原子炉容器フタが腐食して、あわや破断。重大事故寸前に！

ステンレス内張だけ残る「首の皮一枚」状態

デービスベッセ原発 (PWR 91.5万kW、1978.7運開) で2002年2月に見つかった上蓋の腐食による大穴



新検査制度はこんな事態を招きかねない